

# 西東京市

第 参 拾 号

# 福島縣人會だより

## 第二の故郷探索

福島県人会 会長 橋本 國勝



今年も待ちわびていた桜前線も足早に通り過ぎ、若葉の緑が目にしみる季節となりましたが、皆様はお元気でご活躍のことと存じます。

新型コロナウイルス感染症との付き合いも3年目。マスク生活が日常となり、私たちの生活は根本的な見直しや意識改革などが求められ、様々な影響を受けています。

さて、今年の3月で東日本大震災そして原発事故からすでに11年が経ちました。

震災の5年後、私の会社の旅行会で福島（会津・中通り地方）へ行き、特産である果樹園桃農家や日本酒の蔵元で杜氏の案内で「安心安全で美

味しいものを届けるための取り組み」を見学・試食し、その情熱を肌で感じる事ができました。

また、西東京市福島県人会の菊池理事と南相馬の海岸で植樹祭へ行き、ささやかですが復興のお手伝いをさせて頂きました。

県人会でも前会長の長谷川さんと、「郷土を応援する福島復興支援の旅」をしたいと話をしていましたが、コロナ禍となり見通しがたないため、旅ができるその日のためにじっくり計画したいと思います。

まだまだ行動の制約が多く、県人会の活動ができない状況のため、宿泊や移動の心配のいらぬ「西東京散策」などから始めてみたいと考えています。歴史的に貴重な神社、仏閣、遺跡等へ公共バスなどを使いながら地域の方の案内を基に訪ね歩き、新しい発見ができたと思います。

これからも今迄の枠を継承しつつ、どの世代の方にも魅力ある楽しい会にしたいと思っておりますので、皆さんからのご意見、ご協力をお願い致します。

## 令和3年度 みちのくまほろば会の活動

事務局 猪野 滋

コロナウイルス感染症拡大により、年初から会合や行事は見込めない。と予測して令和3年度はスタートいたしました。5月には11月に開催されている市民まつりの中止が決定しました。2年連続の中止です。7月の日本橋ふくしま館の店も見合わせることにしました。

①6月に入り、西東京けやき会の上野代表様から避難者の支援のお手伝いをしたい。というお話を頂き、7月の県人会役員会に出席の上説明頂きました。

西東京けやき会様は、民謡・フォークダンス活動を長年続けられていて、3・11以降避難者の皆様に活動に参加してもらって一緒に楽しめればと考えていて、縁あって県人会へのお誘いとなりました。ま



ほろば会の皆さんで話し合った結果、お受けして10月の市民文化祭に出演しようと決めてから練習6回。皆さんで一生懸命練習しました。日ごろの活動は手作り品の作成と販売会の開催ですから勝手が違います。

なんとかかんとか形になって10月23日(土)市民文化祭本番です。相馬盆唄・東京音頭をまほろば会だけで踊り、きよしのズンドコ節の踊りと、今日の日はさようならの踊りと手話はけやき会の皆さんと一緒に実演しました。短期間でやり切って皆さん満足されたと思います。(みちのくまほろば会の参加者は8名でした)

②10月25日(月)、社会福祉協議会経由でアスタビル2階センターコートでのまほろば会手作り品の販売会参加の案内があり、願ってもないことと出店をすることにしました。

当日の会は「おかいものでフレイル予防を」という趣旨で社会福祉協議会や市内の地域包括支援



センター、介護事業者の参加で相談会や体力測定などが実施されました。みちのくまほろば会は、手作り品の販売と福島県から送ってもらったポスター掲示、観光PRグッズの配布、カタログの配布を行いました。みちのくまほろば会の認知度もアップしました。

③②の準備中の10月19日(火)、後藤代表と猪野で株式会社アスタ西東京を訪問し、センターコートで実施される年末大抽選会会場での手作り品販売会出店許可願いを実施し、12月20～22(月～水)を予約することができました。

昨年実施した時の売れ筋であるリースを中心に準備することとし、定例の火曜日に集まりリースづくりに専念しました。リースのベースは昨年は会津の山から採取した木の蔓を編んで作りましたが、今年はその蔓に替えて太めの縄を編んでベースにしました。飾り付けは松ぼっくりや木の実、ヒイラギの葉、ほうき草等をカラーテープで着色し



ブルーガンで取り付けました。それらをきれいに包装して完成です。その他は在庫品のシャツ、ポプリ、お手玉、会津木綿のストール、豊の縁を縫い合わせたポシェット、手作りのバック等を販売するほか福島県から送っていたいただいた観光PRグッズ（赤べこストラップ・赤白の白川だるま・起き上がり小法師）を一定額お買い上げいただいた方にさし上げたら大好評でした。観光ポスターを掲示し観光パンフと観光地図は皆様に配布させていただきました。

今回の販売会を含めて、昨年と同様にジェフリーの渡辺さん、静岡大学助教授で3・11からの復興について活動を行っている望月さん、社会福祉協議会の阿部さん・佐々木さんには大変お世話になりましたことご報告いたします。

\*みちのくまほろば会の活動も11年目です。手作り品の作成と販売会で皆様から活動をお認め頂けるようになりました。それが実績となり出店の希望もお認め頂けるようになりました。これから地域の中で地域の方々と共に活動が続けてまいりますので皆様のご支援よろしくお願いたします。

## みちのく・まほろば会

3.11で被災された人々とボランティアの人たちで  
お喋りしながら小物作りをし活動しています  
日本橋のアンテナショップや市民祭り等でも販売しています  
御一緒に活動して下さる方・募集中！  
少しの時間でも大歓迎！・男性も大歓迎！

代表 後藤恭子

Tel : 080-6002-9050

mail:michinokumahoroba@gmail.com

## みちのくまほろば会の活動

福島県 企画調整部 避難地域復興局

避難者支援課 主事 橋谷田 敬

新型コロナウイルスの影響により、まほろば会さんの活動もご苦勞が多々あつたかと思いますが、皆様の福島県への想いが感じられた大変貴重な機会となりました。

発足から10年ということで、震災当初からこれまで暖かいご支援をいただいていることに改めて感謝申し上げます。

福島の復興は道半ばではありますが、避難された方が落ち着きを取り戻しているのは代表を務める後藤さんはもちろん、県人会さんや社協さんのご理解のある方々のお力が大きかったものと思います。

今回のような機会は福島を知ってもらうことだけではなく、福島から離れた方と福島をつなぐ場所にもなっていると感じました。個人的にこのような機会は今後も大事なものになるかと考えます。

10年が経ち、避難された方の状況も変わっていく中で、いろいろと在り方はあるかと思いますが、お手伝いできることがあれば微力ながらご協力させていただきます。

# みちのくまほろば会の活動

福島県 復興支援員 深草裕子

福島県復興支援員の深草です。

先週、西東京市社協の安倍さんより、猪野様からのメールをいただき、感想をとのお話でした。簡単ではございますが、お礼と感想をひとこと申し上げます。

販売会では大変お世話になり、ありがとうございます。私達支援員も新型コロナウイルス感染症の影響から、この2年間は、戸別訪問がほとんどできない状況で、昨年12月に、ようやく再開となりました。そのようななかで、作品販売会の開催も気をもまれたりすることも多く、本当に大変だったことと拝察いたします。

ごあいさつのみでお手伝いもせず、申し訳なかったのですが、様々な作品を拝見し、買わせていただいで楽しませていただきました。クリスマスの時期で、華やかなリースやスクーフも素敵でした。わたし自身は化粧品やマスクアクセサリー、そしてボールペン！に大満足でした。マスクアクセサリーは、すぐにマスクにつけさせていただきました。ボールペンは、

小さな小さな起き上がり小法師が入ってとてもかわいらしく、一番のお気に入りです。奥様の手作りとうかがいましたが、このように小さなかわいい笑顔の起き上がり小法師を作る事ができることに驚きました。そして七転び八起きの小法師を見てはいろいろ困難なことがあってもがんばらなくてはと思っております。

このような作品販売会は、「支援する方」、「支援される方」、ではなく、作っても見ても売ってもそして買ってものの立場でも楽しめて、三方良しどころか、「万方よし」ではないかなと思えました。そしてこういう形ができている地域はなかなかありませんし、猪野様や社協さん、みなさまのご苦労は多大なるものと拝察いたしますが、本当にすばらしい取り組みだと思えました。

私達支援員の戸別訪問は、またもやコロナの拡大で、難しくなってしまう、駐在の橋谷田さんも一時的に本課へ応援に入られるとのことになってしまいました。ボールペンのかわいい起き上がり小法師たちをながめながらがんばっていきたいと思います。

春とはいえ、まだまだ寒い日が続くようですので、くれぐれもお体をたいせつになさってくださいませ。

# 妻眞理子を偲ぶ

思いは県人会の皆様と共に

坂口 光治

生前は福島県人会の皆様に変なお世話になり有難うございました。コロナ禍での葬儀となり皆様にはご心配をかけましたが、橋本会長をはじめ県人会の多くの皆様にご会葬をいただき有難うございました。心から感謝申し上げます。

眞理子は故渡部政武・千代の娘として昭和25年福島県の下郷町で生まれました。翌年、生後6カ月で両親とともに上京し、旧保谷市及び田無市で生活し成長してまいりました。

福島県人会の発足とともに、帰趨本能を持った「サケが生まれた川に戻るがごとく」入会させて戴き、故郷の香りがする皆様との出会いと交流に大きな喜びを覚えていました。



妻の71歳と4カ月の人生の春夏秋冬は、春は穏やか（幼少、小・中・高・大・公務員）、夏は波乱万丈、（結婚・出産・育児・

夫の都議5回・市長2回の選挙）、秋は充実（孫2人・書道・県人会・兄弟会・国内外旅行）錦秋の季節を共に楽しんで戴きました。しかし冬の訪れ（病気・治療・永眠）があまりにも早過ぎたことは夫として残念でなりません。

3・11の東日本大震災から11年、福島への復興も途上にあります。眞理子は他界しましたが、その魂は皆様と共に生きていると信じています。コロナ禍もなかなか出口見えません。しかし明けない夜はありません。困難は絆を確かなものにする礎ともなります。会員とご家族の皆様へ、ご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。ご挨拶と致します。

# 食事会

事務局 吉川 美貴雄

コロナ禍にともない、相変わらず県人会の行事は軒並み開催見合わせが続いています。当初は、昨年に引き続き屋外でBBQを出来ればと思っていました。状況が落ち着いていないと判断して開催は断念し、コロナの状況が落ち着くのを待つしかありませんでした。

十一月になり、落ち着きが見えてきたため、久しぶりに会員の交流を計る場として、食事を計画し、感染防止対策に十分留意した上で、十二月十二日「墨花居 田無店」にて開催



いたしました。

参加者は、二十一名。お店の感染防止指針もあり、席の間隔を広く取り、アクリル板で正面及び隣の人と仕切られた状態で、音量抑えめの静かな食事会となりました。初参加の方を含め、久しぶりに顔を合わせ、久しぶりに顔を合わせたの食事に、皆さん満足していただけたようでした。



これからも、感染防止に十分な配慮をして、各種行事や、分科会活動を行っていききたいと思いますので、開催の際には、皆さんのご参加をよろしく願います。



## 「はじめよう」から「実現する」へ

泉町（猪苗代町）猪野 滋

「はじめよう」から「実現する」へ。福島県の新スローガン。

2021年、福島県は新スローガンを策定しました。「はじめる」から「かなえる」へ。ひとりひとりの力を重ね、それぞれの思いを繋ぎ、ともに、ひとつずつ、しっかりと、カタチにし続けていこうと。

この新スローガンの発表とともに、「ひとつ、ひとつ実現するふくしま広報隊」の募集があり西東京福島県人会として応募し、広報活動用としてポスター、マグネット、ステッカー、ミニフラッグ、缶バッジを送っていただき、会員の皆様はじめ、多くの方々に配布いたしました。ご近所の農家、魚屋、雑貨屋、花屋、豆腐屋、理美容院、病院、個人宅など、皆さん気持ちよく応援隊をお引き受け頂きました。

～いままでと、これから。おひとりおひとりの思いをひとつひとつじつげんしよう。～

10年という時が経ちましたが、まだ避難生活を余儀なくされている方や関東近郊にご自宅を移された方々がいらっしゃいます。居住困難地域が縮小して「まち」に戻れる体制が整備されつつあります。10年前に戻ることはできません。過去を忘れることもできません。今ある姿から未来を見通すとき、皆さんに明るい光が届くようお祈りいたします。

私は書道を習って丸6年になります。書道芸術院展の現代詩文書の部門に2019年度は釋超空さんの「田無の道」、2020年度は会津藩士、秋月悌次郎の詩「落花は枝に戻らずとも」2021年度は「ひとつ、ひとつ実現するふくしま」を書として提出し入賞することができました。

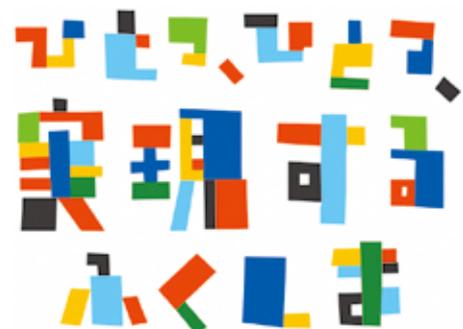
その、詩をご紹介させていただきます。

平らな道ではありませんでした。

真直ぐな道ではありませんでした。

復興は、まだ道半ば。ひとりひとりがそれぞれの日常を丁寧に、歩みながら。

Not a Dream.



希望も、夢も、現実となるその日を作るための入口なのだと思います。  
はじめる、から、かなえる、へ。  
チャレンジの卵の、その殻を破り、生まれるものたち。それぞれの場所、それぞれの思い、それぞれの歩幅で。  
ともに思い合いながら。



平らな道  
ではありま  
せん  
でも真直  
な  
道ではあり  
ませ  
ん  
でも  
また道半  
ば  
ひとりひ  
とりが  
それそ  
の日常  
を丁寧  
に歩  
みながら  
Not a  
Dream  
希望も夢  
も  
現実とも  
なる  
その日を作  
るた  
めの  
入口なの  
だ  
と思  
いま  
す  
はじ  
める  
か  
な  
え  
る  
へ  
チ  
ャ  
レ  
ン  
ジ  
の  
卵  
の  
そ  
の  
殻  
を  
破  
り  
ま  
す  
か  
ら  
な  
る  
も  
の  
た  
ち  
そ  
の  
場  
所  
そ  
の  
お  
も  
い  
そ  
の  
お  
も  
い  
を  
も  
と  
も  
に  
お  
も  
い  
あ  
い  
な  
が  
ら  
ひ  
と  
つ  
ひ  
と  
つ  
実  
現  
す  
る  
あ  
か  
べ  
こ  
家

「ひとつひとつ実現する」

第75回記念書道芸術院展

褒状 猪野 滋



新鮮な生肉を丁寧に串打ちした  
焼き鳥が自慢です！

青竹酒 厳選した地酒

本格焼酎 ワイン 等 各種ご用意しております。

西武柳沢駅北口 徒歩すぐ！ 営業時間 17:00 ~ 24:00

北口商店街に出て左に曲がると目の前です L.O. 23:00 不定休

西東京市 保谷町 3 - 11 - 22 042-468-1039

居酒屋

会津の台所

あかべこ家

馬刺しと十割そば

会津の銘酒や

珍しい地酒も

取り揃えています

17:30 ~ 23:30

日曜定休

042-455-4857

西武柳沢駅南口より徒歩3分



より快適な住まいに  
替えてみませんか

家族の変化によってリフォーム可能な木造在来工法は、  
手を加えれば100年、200年と住み続けることができます。

● 皆様のライフスタイルに合わせて柔軟に対応 ●

株式会社 橋本工務店



建設業許可(般29)第71368号

西東京市田無町1-4-1  
東久留米市南町4-4-32  
042-476-2521

有限会社 小関内装

健康・自然環境を考えた住まい造り  
オガファーザー=ウッドチップ壁紙  
& デュブロン天然塗料(ドイツリボス社製)

FAX: 042-423-6651 MOB: 090-3402-6563

〒188-0001 西東京市谷戸町 1-13-6

## 駅名の謎 磐城と岩代そして会津

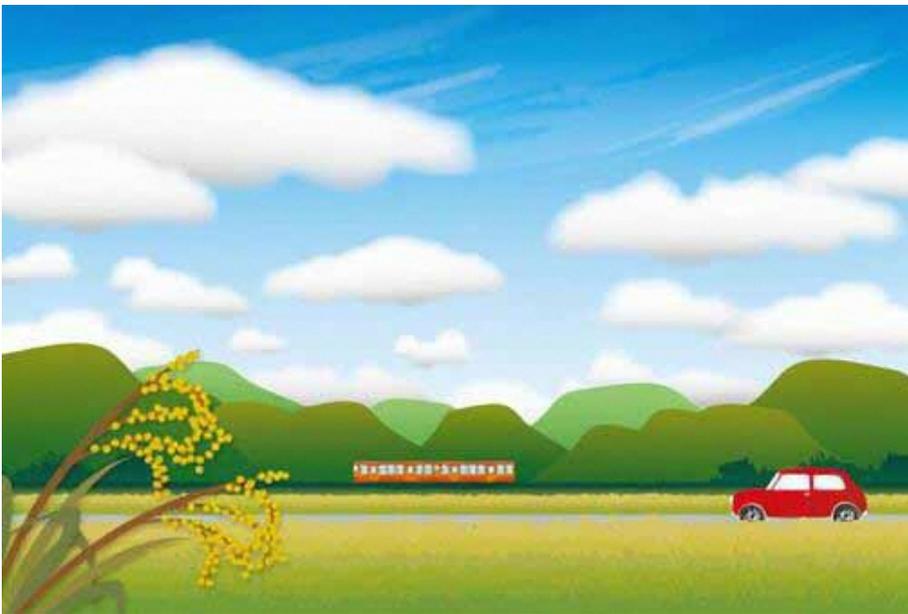
谷戸町（郡山市） 吉川 美貴雄

福島県の鉄道路線図を眺めてみると、ちよつと不思議なこ

とに気が付きます。それは駅名の頭につく地域名です。

鉄道の駅名は混同を避けるために同名駅は明治後期から禁止されているため、国内のどこかに同じ名前の駅がある場合、他の名前を考えなくてはなりません。その時に使用される方法として地名の頭に地域の名前、多くの場合は旧国名を付ける方法です。

西東京市を含む東京・埼玉エリアは旧武蔵国ですので、現西武新宿線が開通した時点で、三重県の関西本線に「関」駅が既に存在していたので、「武蔵関」駅にするように、武蔵〇〇駅とすることにより、同名駅を避けるとともに、日本のど



のあたりに位置するかもわかりやすくなります。

福島県の場合ですが、陸奥国の南部に位置していましたが、廃藩置県への移行措置に伴い陸奥国は陸奥・陸中・陸前・磐城・岩代に分割され、現在の県境とは一部異なる部分もあります。が概ね磐城と岩代の二国を合わせた範囲になっています。

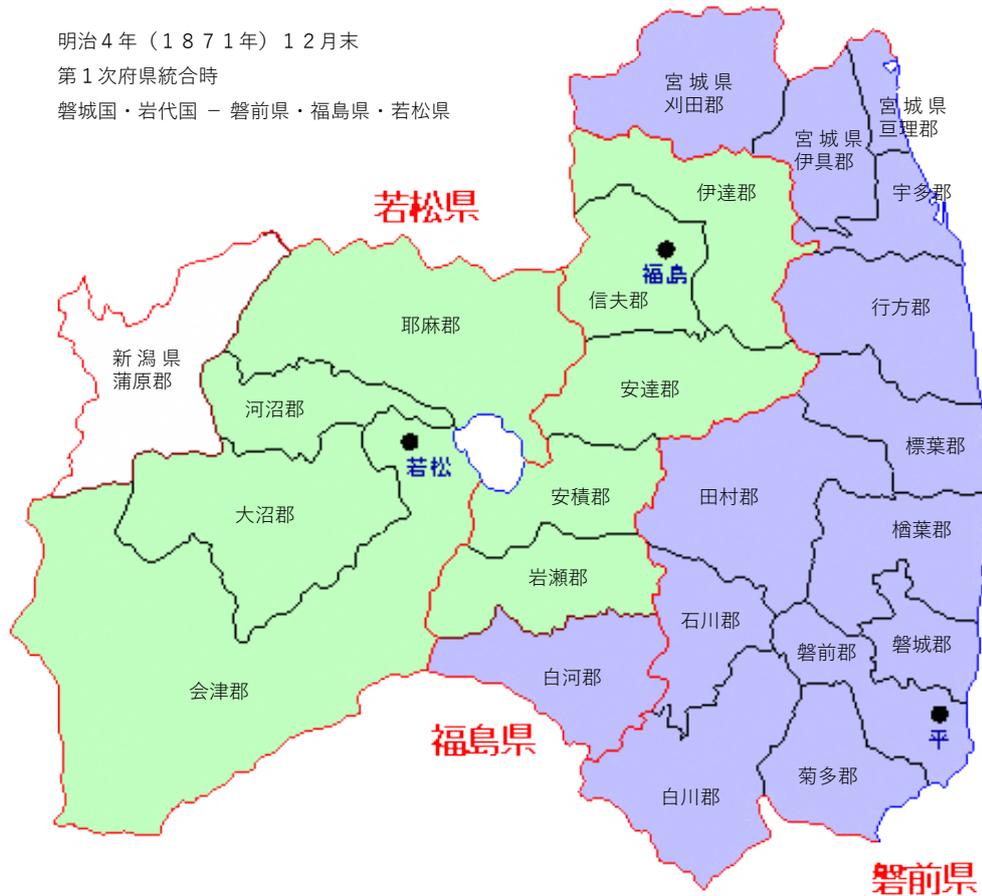
では、磐城の国と聞いた時、皆さんは福島県のどのあたりを思い浮かべますか？ 浜通りを思い浮かべる方が多いのではではないでしょうか。

でも、鉄道路線図を見ると、浜通りを南北に貫いて走る常磐線には「いわき」と「磐城太田」の2駅しか磐城を冠した駅がありません。磐城東線に「磐城常葉」があり、他はすべて水郡線に集中しており、「磐城守山」を始めに石川・浅川・棚倉・埴・石井と6駅あります。また、新幹線開通までは、今の新白河駅も磐城西郷駅だったのです。

磐城って中通りの南部地域？状態です。

では、岩代の国は……無い！ 岩代〇〇駅は一つもないのです。

かつては、岩代熱海駅がありました。昭和40年6月に



磐梯熱海に改称された他、松川駅から川俣駅を結んでいた川俣線に岩代飯野、岩代大久保、岩代川俣の3駅があったのですが、昭和47年5月に川俣線は廃止となり、岩代〇〇駅は、絶滅してしまいました。

実は、現在の鉄道駅名を調べると、佐渡や対馬のような島嶼国名を除くと駅名に使用されていない日本の旧国名は「岩代」だけなのです。(上野国も使用されていませんが、俗称の上州〇〇駅と上毛〇〇駅が合わせて6駅あります)

「岩代」に替わって福島県最大勢力を誇るのが「会津」です。会津若松を筆頭に、現在24駅(廃止・改称した駅名を加えると30駅)と国内トップの座を永年保っています。

この磐城・岩代・会津の駅名の不思議はどうしてできたのでしょうか。

上の地図は、明治四年の第一次府県統合時のもので、青い部分が磐城国・緑と左端の白い部分が岩代国です。県南部の現中通りエリアが磐城国に属していたことが解ります。そして、この地図では分かりづらいですが、田村郡・石川郡と安積郡・岩瀬郡の国境は阿武隈川だったとのことで、会津地区を除くと岩代国の範囲は、現中通りエリアと比べても狭い範囲しか無かったことが解ります。

そして、もう一つ左の表をご覧ください。

同名駅が禁止されたのは、明治四〇年代からですが、東北本線・常磐線・磐越西線はその前に開通しており、磐越東線も大正前期の開通と、福島県の基幹路線はかなり早い時期に完成していたため、早い者勝ちではありませんが、駅名の重複を避けるために旧国名等を冠する必要が殆どなかった訳です。

同様の理由で、昭和に入ってから開通した水郡線・只見線・会津鉄道には、同名駅を避けるため、磐城〇〇駅や会津〇〇駅が多数開設されることとなった訳です。

すなわち、磐城〇〇駅が浜通りではなく中通りに多いのは、常磐線の開通が早かったため。同様に岩代〇〇駅が無いのは、会津を除く岩代国を通る、東北本線や磐越西線の開通が早かったため、ということが解ります。

そして、会津地域は岩代国に組み込まれましたが、現地でも周辺地域でも「会津」の地域名が古くから定着していたため、会津地区に岩代〇〇駅が誕生することも無く、会津〇〇駅が自然と定着していったものと思われまます。

福島県は、鉄道黎明期において、東北各地を結ぶ鉄道網の整備上、極めて重要な位置であったために初期に開通した路線が多いことで不思議な現象が起きたと言うことでした。

| 路線   | 区間         | 開業年月     |
|------|------------|----------|
| 東北本線 | 黒磯 ～ 郡山    | 明治20年7月  |
|      | 郡山 ～ 仙台    | 明治20年12月 |
| 常磐線  | 水戸 ～ 平     | 明治30年2月  |
|      | 平 ～ 岩沼     | 明治32年5月  |
| 奥羽本線 | 福島 ～ 米沢    | 明治31年9月  |
| 磐越西線 | 郡山 ～ 若松    | 明治32年7月  |
|      | 若松 ～ 喜多方   | 明治37年1月  |
|      | 喜多方 ～ 津川   | 大正3年11月  |
| 磐越東線 | 郡山 ～ 三春    | 大正3年7月   |
|      | 三春 ～ 小野新町  | 大正4年3月   |
|      | 平 ～ 小川郷    | 大正4年7月   |
|      | 小野新町 ～ 小川郷 | 大正6年10月  |
| 水郡線  | 安積永盛 ～ 谷田川 | 昭和4年5月   |
|      | 谷田川 ～ 河東   | 昭和6年10月  |
|      | 河東 ～ 棚倉    | 昭和9年12月  |
|      | 棚倉 ～ 塙     | 昭和7年11月  |
|      | 塙 ～ 東館     | 昭和6年10月  |
|      | 東館 ～ 大子    | 昭和5年4月   |
| 只見線  | 若松 ～ 坂下    | 大正15年10月 |
|      | 坂下 ～ 柳津    | 昭和13年11月 |
|      | 柳津 ～ 宮下    | 昭和16年10月 |
|      | 宮下 ～ 川口    | 昭和31年9月  |
|      | 川口 ～ 只見    | 昭和38年8月  |
|      | 只見 ～ 大白川   | 昭和46年8月  |
| 会津鉄道 | 西若松 ～ 上三寄  | 昭和2年11月  |
|      | 上三寄 ～ 湯野上  | 昭和7年12月  |
|      | 湯野上 ～ 田島   | 昭和9年12月  |
|      | 田島 ～ 滝ノ原   | 昭和28年11月 |
|      | 滝ノ原 ～ 新藤原  | 昭和61年10月 |
| 福島交通 | 福島 ～ 飯坂温泉  | 昭和2年3月   |

## 「道」

田無町（下郷町）和田山カツエ

私は家族の勧めで理容師になりました。免許を取り五年間の年季奉公を終えて結婚しました。品川の荏原中延に住んでいました。

何年か後、田無へ家を建て引っ越してきました。

第一印象の田無は、夜になると田舎の様に暗く、淋しい所だなあと思いました。それからしばらくして、近くの病院に勤め始め二十七年間勤めていました。

二十七年間勤務しているうちに、車の免許、書道教授免許を取得してきました。今は、ボランティア活動として、安全協会、推進委員、高齢者交通指導員、ふれあい協議会と、微力



ながら警察のお手伝いをしています。

私はいつも辛い時・くじけそうになった時、この言葉を思い出します。

「なせば成る

なさねば成らぬ何事も

成らぬは人のなさぬなりけり」

この言葉は中学一年の時、英語担任だった先生が英語辞典を私にプレゼントしてくださいました。辞典の最後に先生自筆で書いてありました。ずっと先生とは文通をしていました。

今は亡くなりましたが、この言葉がどんなに力になったか。応援し、支えてくれていることを先生に手紙で書いたことがあります。

先生の返事は、「その言葉が役に立っていたのか・・・」と喜んでいました。

これからも私は、元気なうちはボランティア活動を続けていきたいと思っています。

# 子牛の旅 3・11の避難余話

## みちのくまほろば会 後藤恭子

新緑の美しい今頃、当会に新人さんが入会して会も一段と華やき、賑やかになった感じですよ。

ご出身はと問うと、いわき市の赤井とのこと。急に親近感がわき大歓迎となりました。

実は、「赤井」と聞くとハラハラドキドキする話題がありますので、今回はそおのお話を。

3・11のあの日、大地震の恐怖は、天と地がひっくり返る様で、皆様もすでにご承知の事件と事故でしたが、今年で二年目を迎えても未だに尾を引き、先の見えない苦悩が続いている人も多数いらっしゃる訳です。

あの日の原発事故発生時には、街中の防災サイレンが狂ったように鳴り続け、防災無線からは意味不明のままに「避難せよ！ヒナンせよ！」と叫ぶ黄色い声の連呼だけでした。

この時は、町民のすべての人は一寸だけの一時避難だと思っていた訳ですが、処が何と故郷を捨てての永久的な避難だったのです。まったくの着の身着のままの強制避難でした。

Aさん宅では、和牛を数頭飼育しており、その中には生まれて半年ほどの子牛が2頭いたそうです。大切に、食べ物にも気を使って育てていたとのことでした。

しかし、これも例外ではなく、「避難せよ！」「ヒナンせよ！」「今すぐにしろ！」と町の役人達が来て怒鳴りまくり、まるで喧嘩の勢い！何をどうすれば良いやら、呆然自失のあり様。

先ず、牛達をどうすれば・・・と苦慮するばかり。しかし答は出なかった。と話す。

又々、町の役人たちが来て、「何をしている！早く避難せよ！」と強制命令。

「牛たちをどうすれば？」と問うと、いとも簡単に、「開放せよ！」と怒鳴る始末。Aさんは、次の巡回を恐れて居留守を使うことにした。

Aさんの心情は、手塩に掛けて育ててきた、我が子に等しい牛たちを解き放すなど・・・とても出来ない無理な相談でした。

「まだ居るのか！」「さっさと避難せよ！」再び来た町の役

人たちが怒鳴り散らし、「牛を放すぞ！」と言って柵を切つてしまいました。

Aさんは、悔しくて、可哀想で、少しでも長く生きられようにあるだけの餌を撒き、干し草を広げて、涙が止まらなかつた！「元気でな！」「生きて行けよ！」と声掛けし背を向けるのが精一杯だったと話す。

しかし、飼われて居た牛たちは、野生に戻ることなど所詮出来る訳もなく、餌を探すことも出来ず、大半が餓死の道が待つだけの命なのです。目をつむって、心を鬼にした瞬間だったとの談。

Aさんも追われる様にして、故郷を後にして「久米川」に一時避難をしたのでした。身寄りもなく、生気を失ってしまい、老いを待つだけの苦しい暮らしだったと話すのです。

それから数か月後の初秋に、「赤井のCです」と名乗る人物から連絡が入りました。

赤井など地名も知らず、まして知人もいる訳が無かったのですが、話を聞いてみると、「お宅さんの鑑札を付けた子牛を、私の所で保護しています」との内容だったと云う。

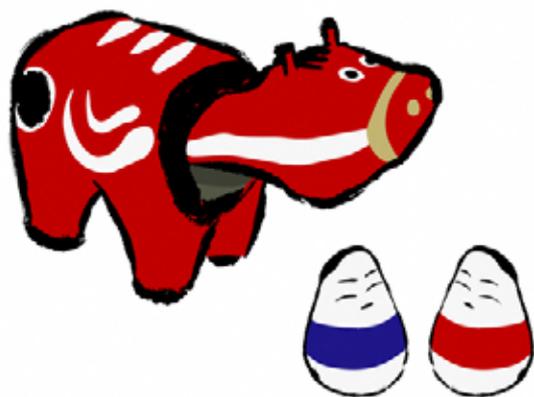
え〜！ビックリ仰天！あのチビのヨタヨタとした子牛が生きていたとは・・・？電話を切つてからもガタガタと胴ぶるえが止まらなかつた。と話す。

あの日、泣きながら放したチビが丸六か月の旅を経て無事に生存していたとは、正に奇跡のようで信じがたい。すぐに面会の支度をする。

あの阿武隈山地の道なき道を山を越え、野を超え、谷を越え、そして風雪に晒されながら、更には野生動物と戦い、時には言葉を交わし、餌を探しながら、灯りと安住の地を探しながら、生きることを諦めずに前に向かって進む、子牛ながらの「想像を絶する姿」に、「強烈な精神力」に、更には、「運命の持つ力」に後押しされての行動には、ただただ感動を覚えるばかりです。

言葉も出来ず、頼りにする仲間も居らず、一頭の戦いにただただ「アップパレ！」と叫びたい。

Aさんは、すぐに赤井に行き子牛と再会。すっかり成牛



となり、たくましい姿で近寄って来たと言う。抱きしめてやりたかったと話す。幸いに、子牛は草食で生きることが出来るので、命を繋げられる条件であったものと思う。

別の時、体中を撫でてやり「ごめんな、ごめんな」と言いながら、後ろ髪を引かれる思いだった。と話されていました。

アップレ・アップレ！ 万歳・万歳！

## なつかしい福島の思い出

西原町（西白河郡） 前原道子

家の脇をずっと続く一本道があり、この道をまっすぐ行くと那須になるという、栃木県那須との県境にほど近い、はじっここの小さい村。西白河郡中島村大字松崎（旧滑津村）。ここが私の出生地です。

父は葛飾区から遠い松崎まで見合いに行き、廊下に娘が二人いて右の娘だから、べこをみながら顔を見ておいでと言われた。べこの意味がわからず、そのあとも顔を見ることがで

きなかった。祖母がとても温かい人だったので、この人の娘ならと結婚を決意。母は賑やかな下町の商店街に嫁いで四人の娘に恵まれた。その第一子が私です。吉報を待つ父のもとに「無事男子出産」と嬉しい知らせ。ところが追いかけるように、また電報がきた。「申し訳ない間違いだっただ女の子だった」と。正しい道を歩いてほしいと「道子」と付けられた。二歳下の妹の時は遠い福島から祖母が手伝いにきてくれました。

六年生の夏、八年ぶりに五人で祖父母に会いに行きました。白河の駅からタクシーで三十分以上、気がつくくと遠くの方に誰かいます。立っていたのは祖父でした。電話のない頃です。何度も出たり入ったりして待っていたのです。祖父も遠くの方から近づいてくるタクシーをどんな気持ちでみていたのか！

ゆるい坂を上がるとわらぶき屋根の家。目の前に広がる畑、べこの小屋、井戸、柿の木、たばこの葉っぱが干してある風景、大きないろりと土間の暗い台所、まるで別世界だった。

井戸が離れているので水を運ぶのは大変な仕事である。やる事はいくらでもあるのでみんなよく働いていた。いろりを囲んでの食事は楽しく、何を食べてもごちそうだった。いとこ達と笑いこぼして遊んだ三日間はあつという間に過ぎ帰る日になった。

汽車に乗りお腹もすいた頃、母が包みを広げると白いおにぎりがたくさんあった。ごはん粒が指につかないように軽く焼いた子供が食べるのに丁度いい大きさの梅干しが入ったおにぎり。しその香りがする浅漬の梅をおみやげに持たせてくれた。遠かったので妹三人が祖父母に会ったのはこの時一回だけだった。

そして十四・五年経ち、約五十年前の九月、祖母の体調が良くないと聞いて、急ぎよ母と行くことになった。

在来線の白河駅に降りてビックリした。隣にイトーヨーカドーがあり、東京と同じ賑やかさだ。しかし、村に着く迄の景色は以前と変わらなかった。

ゆるい坂を上がると隠居のための家、その前に清潔なお風呂が建ち、べこはもういなかった。

土間に入ると祖父母は大きくうんとうなづいてほっとした表情を見せた。親が元気なうちに母が里帰りしたのは、私が三歳、六年生、そして今回の三回だけ。

下の叔母は石川郡、末の叔母は道をはさんだ隣にいる。嫁ぎ先は大きな農家だ。

お昼になり叔母さんが、何もなくて悪いねと言って、梅干し・

味噌漬け・味噌汁・おひたしを出してくれた。

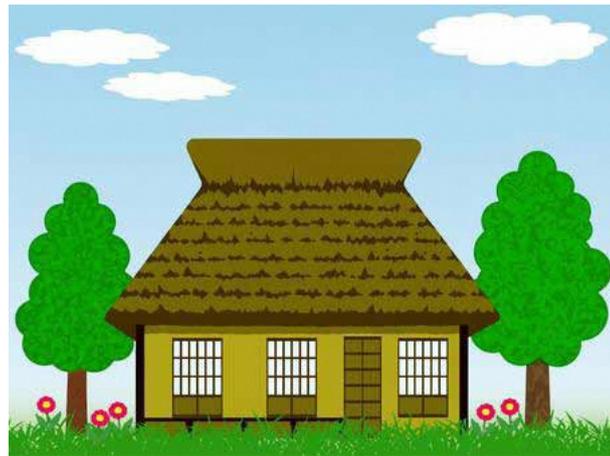
叔父はおひたしをニンニク醤油につけて食べている。パンチが効いた味でおいしかった。

廊下の大きなざるの中に虫のついた古米が入っていた。毎年、新米・お餅・干し柿を送ってくるのが楽しみだったので、

普段はこういうお米を食べていたのかとはじめてわかった。

夕飯はナマズのから揚げだった。鶏のから揚げのように軽くておいしかった。近くに阿武隈川があり、たくさんいたという。

翌日、後ろ髪を引かれる思いで帰ってきた。車中でゆっくり話す時間ができ昔のことを話してくれた。祖父はお米や野菜を持って町で子ども達の着る物等と物々交換してきたこと、母は三年生の時妹をおぶって何回か学校に行ったこと、他にもそういう子がいてめずらしいことではなかったという。昭和はじめの事です。



二十七年前の夏。母も七十歳代になり、兄や妹たちが元気づうちに会いたいと言った。二台の車で八時前に葛飾区を出発、東北道に入り一回休憩をとった。だんだん田舎の風景になつて気が付くと右に阿武隈川、左を見ると西白河郡西郷村と大きな看板がある。出発してそれ程の時間はたっていない。

なんだ、車で来れば福島はこんなに近いんだと分かった。

しかし、順調に来たのはここまで。一般道に入ってからが大変だった。田んぼと畑と電信柱しかない道を走り続けている。家も人影もないので聞くこともできない。携帯もないので前の車にストップもかけられない。早朝田無から三回乗りついできた疲れも出てきた。

車が急に止まり何軒か家がある中に小さな集会所とよろず屋があった。これを見つけたら後は二分位で着いた。なつかしいわらぶき屋根の家はなく、バス・トイレ付きの家が建っていた。はじめて家の中にバス・トイレがある生活。いとこの代になり、農協勤めをしながらの兼業農家になっていた。いとこは東京で会社勤めをしたので気心は知れている。

母だけ道をはさんだ叔母の家に泊めてもらい私達その他大勢は猫啼温泉に宿をとった。

翌日はお墓参り、入院してる叔父のお見舞い、石川郡の叔母の家に行った。それぞれの叔母の家も建て替えられていた。その夜は母も一緒に猫啼温泉に泊まり、福島への旅は終わった。

母も認知が進み四年前から入院している。ガラス越しにバス通りを見るのが好きだった。そしてポツリと「こういう所に住んだら他には住めない」と言っていた。

大正十二年生まれの母は来年一〇〇歳を迎えます。

## ふるさとの道

芝久保町（会津若松市） 甲斐孝子

私の実家は、会津若松市栄町通りにあった。

すぐ前は穴沢病院、隣の角からは県立工業高校となる。

通称、桜ヶ岡と言われ、出世地蔵があったり、静かな住宅地であった。

さほど広くない道の向こう側を巾1メートル位の川が東山街道を流れてくる。

我が家の前あたりで急に深くなり、滝のように流れ落ちてくる。病院の前を通り、宣教師の家を通り、米屋の水車を回し、梅屋敷をすぎ、アンキヨとなつて市役所前を流れてゆく。東山から流れる川は何本もある。

雪の日の栄町の上の方は、大変である。なぜって？人通りも少なく一本の細い道を歩いていると、対面から人と道をゆずり合いが必要となる。同級生は言う「高校生の私たちがどけてやんなんネエベ」。長ぐずに入った雪は冷たいし、学校のストーブかわかしても、いつまでも冷たい。」と。

我が家は、汽車通いの一団体が通ったあとは、道巾が広くなり大助かりであった。

下駄ばきで走り回った路地、小銭もっていった一銭店、学校前の教会、夕方、寄り道した団子屋等々、故郷の原風景として頭をよぎる。

なつかしいが今はない。それがふるさとなのだろう。

# だんごさし

谷戸町（喜多方市） 小関重雄

我々子供の頃は小正月にはどの家庭でも若木と称するミズノ木やカエデの枝に農作物・農具。家畜などの種々の形の「だんご」を木の枝に刺して家の中に飾り、豊作を祈願する行事で、1月14日に行われたものであるが現在ではどの程度行われているのか分からないが、娯楽の乏しかった当時は楽しみの一つでもあった。

熊倉では、新春に花が咲く、枯れ木に花が咲くなど、おめでたいことを象徴する行事のひとつとされた。各家、それぞ

れによって趣向を凝らす、一番大きくて見事に飾った木を大黒柱に結わいつけ、小さいものを座敷、蔵、かまど、井戸や入り口に飾る習わしもある。

刺しただんごは20日の風にさらすものではないと言って19日か20日の早朝に木から取り、家族全員で食べていた。更に、小昼と称してそのだ



んごを小豆粥に入れて食べたたり、だんごをゆでた湯を魔除けとして家の周りに撒いたり、柿などの果実にかけたり、昔の人々の素朴なおまじないでもあり、宗教にとらわれない庶民一般のお祈りでもあった。

## 話下手な私

泉町（須賀川市） 井上ユキエ

井戸端会議や色々な集まりに参加することが好きなのだが自分から話をするのがどうにも下手くそで後でいつも自己嫌悪に陥ってしまいます。

どうしてかな？と考えると小さな時から自分の考えはあまりなくほとんど周りに意見を言った事はありませんでした。結婚してからは夫とは何度も言い合いが有りましたがいつも負けてしまいます。

若い時はお友達と旅行・カラオケとおしゃべりも楽しく過ごしました。

今は夫が病気になり会話も大分減り家にいる時が多く皆とおしゃべりする事が少なくなり淋しくなっていました。でも、県人会に入会させて頂き話をする機会が増えて、下手でも少しは話をしたいなと思っています。

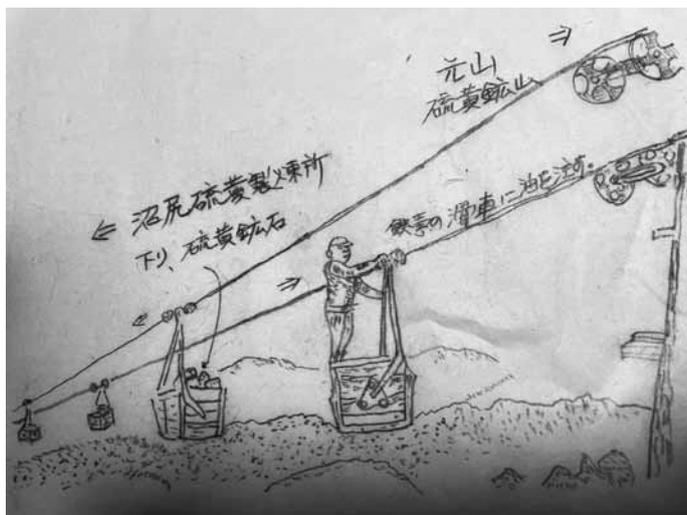
# 山道・坂道・登り道

トントントントントンすってんころり

泉町（猪苗代町）猪野 滋

日本硫黄株式会社は明治40年（1907年）に設立されました。

鉱脈は安達太良山の南方中腹、硫黄川の溪流に沿って硫黄鉱の露頭があり、その長さ125メートルから145メートル、幅員20メートル、硫黄含有率45パーセント。採鉱方法は山腹側面より切り落とし、または、溪間底部



坑道の中より採掘して鉱石を搬出していました。鉱石採掘場から精錬場への運搬は人力運搬から玉村式策動により輸送するようになりました。精錬所から沼尻までは索道により運搬し沼尻から国鉄の駅、川桁までの15.6kmは、「沼尻軽便鉄道」による運搬です。



沼尻から精錬所を経由し本山鉱山（鉱石採石場）までは「登り道」で徒歩120分、一山超えて本山小学校（本校）、鉱山従業員住宅地まで20分と移動手段は徒歩で、食料や生活物資は

鉱山から一山越えの鉄索で運搬し各家

庭や生協へ配送されました。米・味噌・醤油・野菜・魚・肉他の生活雑貨。索道で麓から上がってくる魚は大体一種類で鉱山住宅は全戸サンマの煙が出ていました。本山での記憶では、小学校は、小中全校で160人、2年生は20人、

1生もそんな程度で1教室で先生一人、1年生は前の

黒板、2年生は後ろの黒板と複式学校でした。（鉱山住宅全体で約800人）音楽は教室にオルガンがありました。先生が弾けず、バイオリンで教えてもらいました。授業の課題を早く終えれば外遊びと



決まっています、今でいう少人数学級だったのかもしれませんが。3年生で吾妻第二小学校（沼尻）に転校した時、1クラス50人の6クラスにはびつくりしました。

硫黄は硫黄鉱石を精錬する方法から原油を精製する工程で硫黄が採れるようになり、鉱石採取・運搬・精錬・運搬という非効率な製法は新製法に及ばず、沼尻硫黄鉱山はS43年に閉山、「沼尻軽便鉄道」も昭和43年に休止しました。

沼尻小学校の標高は1,260mの豪雪地帯、桜の開花は6月。冬季間は長屋の軒下が完全に雪で埋まります。前日は長屋の共同の空間にスコップを入れて置き翌日早朝に雪かきをしました。近くの共同炊事場は屋根がかかっています。夜間の冷気で炊事場までの氷をオノで割って滑らないようにしてバケツで水を汲みます。冬季間は水はチヨロチヨロしか出ないので、寒い中、溜まるまで待ちます。共同温泉は鉱山の近くにあり、冬場は寒さでタオルを空中で回すとすぐ凍ります。零下20度以下でした。零下 度になると良くダイヤモンドダストを見ることができました<sup>20</sup>。小学校の体育の授業は毎日スキーで学校の帰りはランドセルが、ソリ替わりです。毎日スキーで遊びまわりました。母は鉱山の看護師、父は電気技師、姉・妹の5人家族で、父はお酒が大好きで毎日「坂道を登って」生協までお酒（当時は合成2級4合）を買いに行きました。早く家に届けて遊びたい一心で「階段状の坂道」を駆け降り

ます。トントントントントン、すってんころり。手に持った4合瓶は決して放しませんでしたが、お酒がトクトクとこぼれます。急いで立ち上がって近くの共同炊事場でお酒の減った分を水で補って自宅へ帰りましたが父親からしかられた記憶がありません。知っていたのか知らなかったのか、今では確認する術がありませんが、瓶の口元までいっぱいのお酒に気づいたことと今では思っています。

春には家族で本山から沼尻まで下がつてヤギ・羊を購入し、「硫黄川谷あいの山道を登り」長屋の自宅へ戻ります。毎日山に入ってヤギ・羊のエサ取りをして大切に育てました。雪が降る11月上旬には人に懐き丸々と太ります。父親が山奥にヤギ・羊を連れて行って肉を持ち帰りました。姉・妹と私は愛情込めて育て上げたその変わり果てた姿にびっくり。夜まで泣きじゃくりました。薪ストーブの上の鍋がぐつぐつと音を立てていい匂いを放ちます。みそ仕立ての鍋に舌鼓を打って腹いっぱい食べました。ウサギやアヒル・ニワトリもそうでした。元山で、家畜は人の食べ物ということを学習しました。天気の良い日は北に安達太郎山、南には磐梯山や檜原湖を望み、一つの山で小学2年まで過ごしたことは今の私の財産です。

山道く坂道く登り道くトントントントンすってんころり、は私の大切な思い出です。

## とまらないささ身と水菜とザーサイの和え物

作るのとはとても簡単です。でも、とてもおいしいです是非、作ってみてください

〈材料〉 四人分

ささ身 2枚

長ネギ 1本

水菜 1/2株

＊お好みで三つ葉でもOKです

ザーサイ一瓶

モッツアレラチーズ 1袋

〈調味料〉

塩・コショウ・ゴマ油 それぞれ適宜



## 〈作り方〉

- ①ささ身はゆでて手で裂いておきます
- ②長ネギは小口切にします
- ③水菜はよく洗い水けを取り2～3cmの食べやすい大きさに切ります
- ④モッツアレラチーズは手で裂いておきます
- ⑤ザーサイは食べやすい大きさに切ります
- ⑥①～⑤をボールに入れ、塩、コショウ、ごま油でお好みの味付けにします

これで完成です。簡単でしょ  
お酒のお供にもばっちりです



## こづゆ

福島県会津地方の郷土料理こづゆを紹介いたします  
具は7～9種類「奇数」で、割り切れない数を使い調理します  
お平（会津塗で平たい朱色の器）と言われる器に盛ります  
お祝い事、法事、正月、お盆、その他人が集まる際に作り振舞います  
また、「露返し」ともいわれお替わりも沢山できます  
干し貝柱のだしが効いておいしいです  
豆お麩もかわいい ♪♪

☆材料 4人分

干しホタテ貝柱 4～5個

※缶詰の水煮でもok

ちくわ 適宜

きくらげ 適宜

豆麩 適宜

ニンジン 中1本

里芋 4～6個

糸こんにゃく 1袋

\*その他姫竹やシイタケなども入れたりします



☆だし

干し貝柱の戻し汁 3～4カップ

だし 小さじ 1

醤油 大きじ 1・1/2

みりん 小さじ 2

☆作り方

- ①貝柱は水につけて戻しておく
- ②豆麩・きくらげも水で戻します
- ③ニンジンはサイコロ大に切る
- ④里芋を一口大に切る
- ⑤糸こんにゃくは3～4cmの長さに切る
- ⑥鍋に貝柱の戻し汁と水を入れだし、ニンジン、里芋、糸こんにゃく、きくらげを加えて煮る
- ⑦具材に火が通ったら、貝柱を入れ、だしを加えて味を調える
- ⑧最後に豆麩を加えて完成です



# あとがき

編集長 甲斐 孝子

バトン渡したヨ!

それは突然やってきた。

3月9日、その日の仕事(書道教室)を終え、夕食をすませたら急に脚がなえてしまった。救急車で運ばれた先は、東大和病院。ちよつと遠い。脳出血とのこと。

それから一ヶ月の入院生活である。右手右脚にマヒがあり、リハビリの毎日。間もなくリハビリ専門の病院(小平市)に転院。更に機能回復の戦いはつづくようだ。

わが人生の想定外の結果となってしまった。90才である世に逝きそびれた思いがあるが、残された生命を無にはできないと考えあぐねている。不死鳥のようにとびたてるかは「?」であるが、県人会の活動をみるのは好きだし、楽しい。

それにしても、リハビリをしていると、体の仕組みについていろいろと思う。箸をもって不自由な手つきで食事をとっているが、中指の存在の大きさを改めて思う。体すべてそれぞれの機能によって順調にうごいているのだ。

県人会の活動も、やる気ある人の力で動いている。「県人会だより」も瓶子さんの後をうけた私であったがもう限界。若い方に編集長のバトンを渡したい。

よろしくネ。

PS..リハビリ担当の先生の中に福島出身者を発見。それだけで力強くてよりにし甘えたくもなった。そんなことに同県人としての絆を感じたりもする。成長を願いたい30代の青年であった。

## 皆さんからの原稿募集中

自己紹介、ふるさとの思い出や現在の姿、帰省の報告、料理や趣味の話 その他、何でも構いませんので、どしどしお寄せください。

原稿の送り先

メールの場合: green-p@jcom.home.ne.jp

郵便の場合: 〒202-0021

西東京市東伏見 1-1-16-101

吉川 美貴雄 宛

DTP 編集委員 編集長

吉川 金成 甲斐

前原

猪野

佐藤

井上

『歩こう会』『カラオケ会』『ゴルフ会』

各分科会は登録制です。現在はコロナ禍で活動休止中ですが、状況が落ち着きを見せ、再開が決まり次第、登録者に活動予定をご連絡いたします。各活動に興味のある方は、まず事務局へ登録ください。

登録・質問等は

メールの場合: ekurume\_kan@yahoo.co.jp

郵便の場合: 〒203-0033

東久留米市滝山 7-1-21-I-102

携帯: 090-8346-2743

管 敏二 まで

編集 西東京市福島県人会だより三十号編集部  
発行 令和四年六月五日  
住所 西東京市東伏見 一―一―十六―一〇一  
責任者 吉川 美貴雄  
電話 〇四二―四五七―八四九一